



研究の動機

最も効率の良い自習の方法が気になったから。

研究の目的

自習の質を向上させる方法を見つけ、自習の質の改善につなげる。

仮説

- ①勉強に集中できる様々な環境を延岡高校の生徒に合うように組み合わせたら、自習の質は向上するのではないか。
- ②内面に訴えかけ、本人のやる気を向上させることで向き合い方が変わり自習の質が向上するのではないか。

研究方法

実験1

- ①被験者を集め、机の素材や大きさなどの条件を変えて400マス計算を行いタイムを測る。
- ②タイムを集計し、条件ごとの被験者のタイムを比較する。

実験2

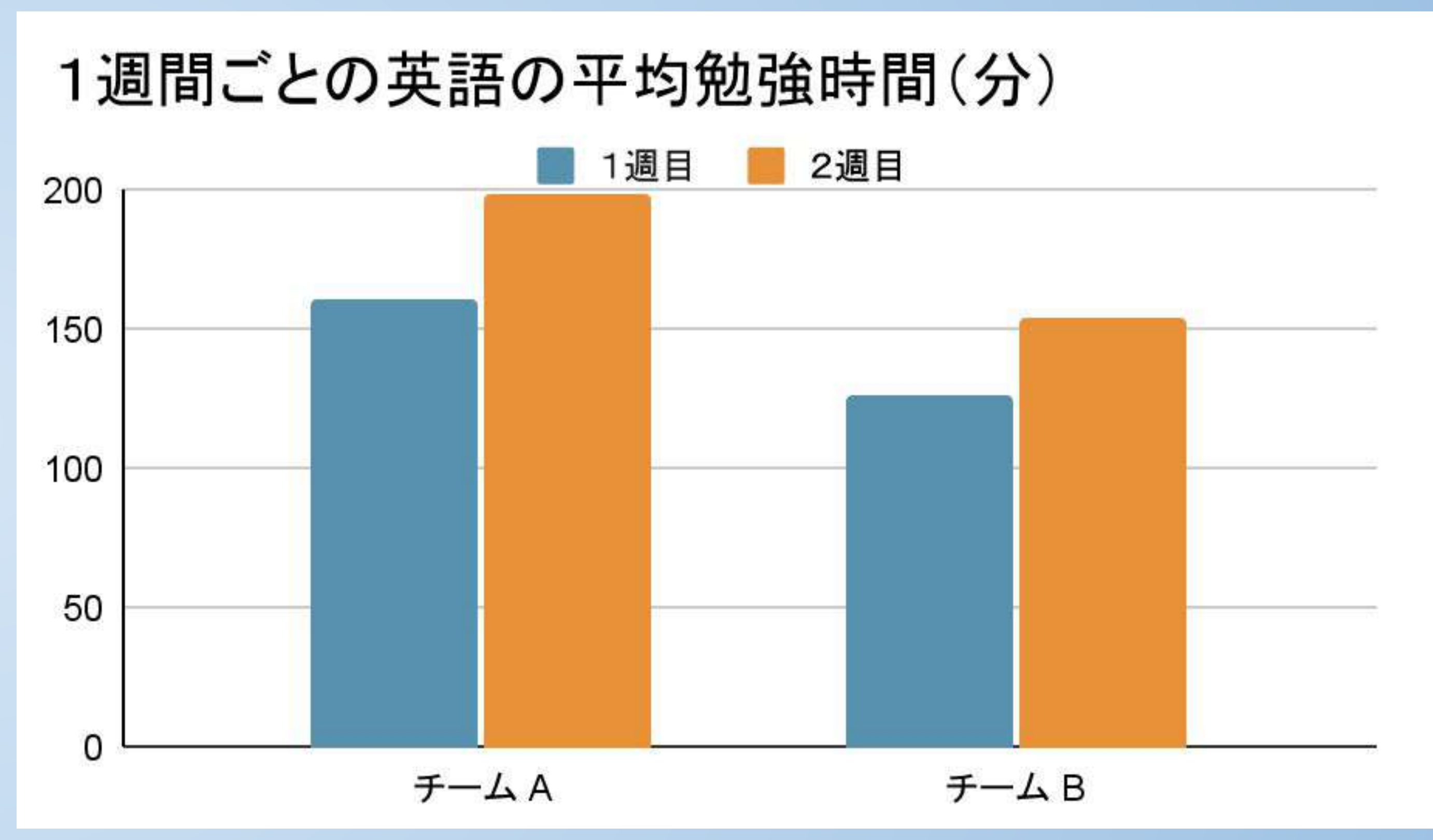
- ①本校の2年生20人を対象に自宅での2週間分の学習時間と、校内で行われた英単語テストの点数を集計する。
- ②勉強時間の集計を行う2週目から、被験者のうち10人に英単語の重要性についての資料を配布し、加えて班員が英単語の重要性を熱弁する。
- ③②のあとに行われた英単語テストの結果を集計する。
※資料を渡した10人のグループをチームA、渡していないグループをチームBとする。

必要な道具

- ・パソコン ・400マス計算用紙
- ・さまざまな種類の机

結果

実験1に取り組んでいる途中に白谷塾の白谷皓司様にお話を伺った。そこで納得のできる否定的な意見をいただいたため仮説2を立て実験2を行った。
実験2で行った英単語テストの1回目と2回目の被験者の平均点を比較すると、約67.8%の減少という結果が得られた。
また、1週目と2週目の英語の平均勉強時間を比較すると、チームAは37.9分上がり、チームBは27.2分上がった。



考察

2回目の英単語テストの平均点が極端に下がったのは1回目と2回目でテストの難易度が違ったことが原因のひとつであると考えられる。
また、チームAの方がチームBより英語の平均勉強時間の上がり幅が大きいため内面に訴えかけることは効果的だと考えられる。

謝辞

研究に関わってくださった先生方、コーチの皆様、白谷皓司様、本当にありがとうございました。

参考文献

https://www.yotsuyagakuin.com/b_gen eki/jisyushitu/